

# 花咲かだより

題字 森 キヨさん

社会福祉法人 緑寿会

特別養護老人ホーム 山科苑

デイサービスセンター 山科苑

居宅介護支援センター 山科苑

京都市山科区大塚野溝町3番地

TEL (075) 593 0800

[ryokuju@agate.plala.or.jp](mailto:ryokuju@agate.plala.or.jp)

<http://www3.plala.or.jp/ryokuju/>

緑寿会のホームページ  
ここからも  
花咲かだよりが見られ  
るようになりました



寄り添うことは隣にいないことではなく、その  
人と時間を共有すること。  
一緒に遊ぼう。  
不自由なことも共有してしまっぐらいの過  
し方をしたら、きつといい仲間になれる。

「介護職人スパーテキストより」



初夏の候、皆様におかれましてはますます御健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より当法人運営にご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございます。さて、山科苑におきましても新たな年度を迎え、法人理念のさらなる実現に向けて、左記の通り、各事業部門にて事業計画を策定し展開してまいります。本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

特別養護老人ホーム 山科苑

利用者ニーズの視点、専門職としての視点、効果的なチームアプローチの視点から、利用者本位の主体的な日常生活が図れる施設として、施設サービス全般を利用者の「生活」に焦点を合わせ、居心地の良いサービスへの創造、改善を全部署が協働して取り組みます。

さらに本年度は、利用者の日々の過ごし方に着目して、行事やレクリエーションに限らずいかなる時も、その人らしい生きがいを持った笑いのある「楽しい日々」を創っていきたいと考えます。

デイサービスセンター 山科苑

現在、山科苑デイは各職員が役割を果たし、チームとしてはどのような利用者に対しても対応可能なレベルにあると考えます。

今年度は、日々の状況に満足せず、職員の緊張感及び個々のレベルの向上を目標に「極める」をキーワードに各職員が介護計画・個別レク・社内研修のテーマについて考え、発表し各項目の質の向上を目指したいと考えます。

居宅介護支援センター 山科苑

昨年度に引き続き、事例検討や、制度説明などの法人内研修を定期開催し、処遇困難ケースや仕事上の悩み等を現場のケアマネジャー同士で共有することによりケアプラン、職場環境の質の向上に努めます。また、法人内に配置された主任ケアマネジャーとの連携のもと、更なる質の向上にも努めます。

施設長 吉澤 英樹

山科苑では、6月中旬より「財団法人 車両競技公益資金記念財団」様から助成を受け、「空調機の取替え工事」を実施いたします。

空調機はご利用者が日々お過ごし各居室・食堂に設置されています。また、新たに廊下スペースにも増設する予定をしています。その為、工事中は、一時的に居室やお過ごしスペースより移動して頂くなどのご協力をお願いすることとなり、若干ではあります。大きな音がする場合もございます。できる限りご利用者にご配慮いたしながら進めてまいりたいと思っております。

工事期間中は、何かとご迷惑をお掛けする事となりますが、ご理解・ご協力のほど宜しくお願いいたします。ご利用の皆様、お気づきの点がございましたら、遠慮なく身近な職員へお伝えください。(工事期間は6月中・下旬～7月末を予定しております。)

「日本財団」様より助成を受け、デイサービスに日産セレナ(乗用車)を新たに配備いたしました。これにより、デイサービスのご利用者がより快適に山科苑へ来ていただくことができます。



「京都新聞社」様より、特別養護老人ホームにチルト式フルリクライニング車椅子の寄贈を受けました。今後、特養のご利用者へより快適に身体にあったケアが実施できます。



## デイサービスだより



### 新人職員紹介

おだに ひさし  
小谷 尚士

昭和 54年 1月 21日生まれ

血液型 O型

### 「自分のやっていきたい事」

ご利用者、その人と心で向き合う事のできる人になりたい。また、家族の方の想いにも目をそらすことの無いようにする。

でも第一はご利用者。障害があったり、高齢者であったり、どんな状態であっても、その人が望む環境で、その人らしく最後まで生活できるように地域の人達や周りにいる人達とともに一日でも多く笑顔でいられる時間を支えていきたい。

そして、その為の技術向上にむけ、日々しっかり勉強していきます。

(小谷 尚士)

非常にまじめでちょっと不器用で、探究心旺盛な青年です。今後とも宜しく願いいたします。  
主幹相談員 安富

### インタビュー

編集：いつも笑顔をたやさない小谷君ですが、何をしているときが一番楽しいですか？

小谷：高速道路をみんなとぶっ飛ばしている時、楽しいっす！

編集：……。旗なんか持ってないですよね……。

小谷：持ってないっすよ(アハハハ)

編集：休日はいつもバイクですか？

小谷：いえいえ、つりやキャンプに行ったり、ギターとかボクシング……身体を鍛えるのは大好きです。

編集：忙しそうですね～資格をとるのも好きだとか？

小谷：えへへ、10個以上取りました。

編集：ほえ～デートをする時間がなさそうですが、彼女の事どのくらい好きですか？

小谷：このくらい(両手をいっぱい広げて)

編集：最後に怖いものってありますか？

小谷：おばけ、犬……さわれません。

それと名前はいえませんが、職場の先輩に1人います。

編集：名前は聞かないでおきます。ありがとうございました。



ご利用者全員で作りました。

色紙をちぎる方、花を折る方、台紙にそれを貼る方、自分が出来る事を楽しめました。

今、デイルームの壁を明るくしています。

# 節分

一年の厄払いを利用者とともに  
全体はいつが楽し舞囃気



2月3日

# お花見(梅・桜)

毎年この時期が楽しみで、  
花見行は欠かさない



3月&4月

# 豆ご飯

植えたい豆を収穫し、食べながら  
苦労してできた分の旨み凝縮



4月22日

# そば打ち体験

デイサービスの利用者と一緒に  
そば打ちを体験しよう



3月11日

# ちらし寿司

ちらし寿司を食べながら、  
作ってもらったおかげで



4月23日

# 外食会

大津プリンスホテル 魚座 函館市場 大  
地の食堂 サンプルク仲良しさん



5月

# 介

介護に就いてから、自分が年老了いた時、どんな気持ちで暮らしているのだろうと考えることが増えました。現在四十歳ですが、思い描いていた状態には程遠い精神年齢の低さと、予想外に早く衰えゆく体力に、私の辞書に「不惑」の文字なしと開き直って日々過して行きます。このまま生きてゆけたらならやがては「高齢者」となるわけですが、今は、便座に座って踏ん張らなければおしっこは出てきません。が、やがて様々な変化が否応なく心身に訪れるのです。精神年齢はあまり変わらないかもしれませんが。

排泄介助をする際は、排泄物の状態、利用者さんの心身の状態を確認します。もともと体質や機能・運動量の変化によってはヨーグルトやオリゴ糖の

摂取や下剤を服用して頂き、看護師とともに調整に苦心します。排泄物もタイミングも十色とつくづく感じ入ることもあります。この仕事をしていなければ、他人様の排泄物をじっくり見ることもまずなかつたでしょう。また、便秘が続いておられる方にトイレから出てこられるたびにお尋ねしますと、嫌な顔をされるどころか「気にかけてくれてありがとう」とおっしゃる方も多く、改めて頭の下がる思いがします。利用者さんの排泄について把握していなければ健康状態を知ることままなりません。その思いばかりが先行し、忙しさにかまけて、申し訳ないなあと感じることを忘れてしまつてはないかと思つたとき、想像してみるのです。四十年後、五十年後の自分はどんな生き方をしているのか。

文 多岐 ゆみこ



たまき 多岐 ゆみこ

平成 19年 12月  
TSUTAYA から山科苑へ転職

趣味：読書・映画鑑賞  
おすすめ本  
『精神科医は腹の底で何を考えているのか』 春日武彦 著  
おすすめ映画  
「グラントリノ」  
性格：打たれ強い  
へこんでも立ち上がる

# 特養通信

# 居酒屋

普段と違った雰囲気でお料理  
気の合う仲間



2月&5月

# 生きがいづくり

生きがいづくりに挑戦。  
フロアの壁を越え共に楽しむ。  
明日は何をしようか



# 「ありがとう」の一言にとても元気をもらいます

# 大

学を卒業し、山科苑に入職して2ヶ月がたちました。介護の現場で右も左もわからず、毎日先輩介護士について学び、指導を受けています。毎日が勉強と発見、反省の日々です。

介護の仕事は排泄、入浴、食事の介助だけでなく、ご利用者が安心して生活していただけるように、心のケアも行っています。心づいていかなければなりません。心のケアはどのような方法で行うのでしょうか。入職した頃、日々の業務や介助方法を覚えることで一杯一杯の状態をしっかりと見ておけるようになったのかと反省します。現在は、まず深呼吸をしてご利用者の表情、体の状態をしっかりと見て介助を行っています。少しずつですが、ご利用者がどんな方なのか、どんなことを思っているのか、どんなことがわかってきたように感じます。

介助をしている時や会話をしているときに「ご利用者の笑顔や「ありがとう」の一言にとても元気をもらいます。」ご利用者の状態は日々変化しています。介助の時に安心してもらえよう、その方らしく、安心して過ごしていただくために、その方にとってよりよいケアとは何かを考えていきたいです。まだまだ介護技術は未熟で頼りないですが、「利用者にとって安心していただける存在になつていきたいものです。」

文 響庭 恵



あいは 響庭 恵

平成 21年 3月 龍谷大学卒業  
平成 21年 4月 山科苑就職  
趣味：ひたすら寝る  
高校野球観戦・高校ラグビー観戦ともにドラマがあるから大好き  
性格：没頭するタイプ。ずっとインターネットをして危険な為、現在自宅にはパソコンを置かないようにしている



山下管理栄養士の

# 山科苑 食事事情 あれこれ

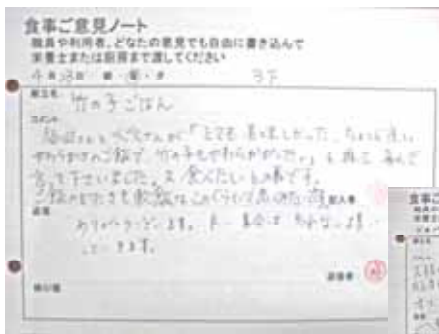
山科苑では施設の管理栄養士が献立作成し、開苑以来お世話になってる委託給食会社の栄養士1名、調理師1名、パート補助員5名で給食調理をしています。

施設には特養に3名、デイサービスに1名の給食委員がいて各部署で出たご利用者の希望を聞き取り、給食会議で話し合った意見や行事委員会が計画した内容を参考にしたり、季節の旬の食材など取り入れたりしながら献立を考えています。

特養では毎年、お誕生日の1ヶ月前にご利用者の嗜好調査を兼ねて、お誕生日の希望献立を聞きとった食事をお出しして、みんなでお祝いしながら召し上がっていただきます。やっぱり「お寿司」「うなぎ」「天ぷら」がランキングの上位にあります！



今年の春から、「食事ご意見ノート」を作成し各フロアに設置しています。ご利用者や介護職員他、誰もが食事に対する意見を記入し、それを受けて厨房職員が返信を書くなど、お互いのコミュニケーションをとるのに活用しています。「山科苑のご飯が美味しい」と言っただけのように毎日の食事内容のコメントを書き残したり、管理栄養士がデイサービスや特養のお食事のご利用者へ、直接「今日のお味はいかがですか？」と伺ったりしながら、より美味しいお食事を提供できるように厨房職員と試行錯誤しています。



実際に記入されている例

おでんの大根が硬い・豚肉が固まっていたのでほぐしてほしい等、細かな要望が厨房へと伝わる。返信からは厨房の栄養士が今後の対応を記入している。

特養の昼食で行われた「パンバイキング」も、ご利用者と給食委員の会話の中から「やって欲しい」との声から計画したもので、職員も一緒にテーブルで和気あいあいと楽しい食事の時間を過ごしました。



## 居宅介護支援センターだより



いつものようにセンターの電話が鳴り、受話器をとると  
「あれから考えたんやけど...やっぱりあのサービスは利用せんとくわ。  
自分でがんばってみたい。」

先日話し合ってた決めた内容について、Bさんからの問い合わせでした。具体的な利用日も決まって後は開始を待つばかりだったのに。いったい何があったんだろう？そういえば、前にも同じことがあったっけ。その時も、ご本人もご家族も同意してくださったはずなんだけどなぁ。なぜ？

援助業務を行うときには、お話をうかがいながらその場の状況だけではなく、その方の心身の状態やご家族の状況、環境などをもとに、先の見込みやリスクなどをある程度予測しながら行うことが必要です。その上でご希望をされていない場合であってもご提案させていただくことがあります。問題はその時の進め方。どんなに良かれとこちらが思っている、結果としてこちらのペースに合わせてしまったり、強引に進めた時（緊急時は別として）には大抵うまくいきません。こちらのペースがあるように、相手にも当然お一人おひとり違ったペースがあるのです。

Bさんの担当を続けるうち、話し合いの後にもう一度じっくりと反芻しながら考えを深めていられるタイプの方だということが、だんだんとわかってきました。時間が経っても、答えが出るまで待つことが迅速に対応することと同じくらい大切なことであると教えていただいた出来事でした。

文 ケアマネジャー 中村 里美

相手の歩調で

## “ 思 案 想 論 ” 副施設長より

“共感的理解”とはバイステック7原則を駆使して、相手の気持ちになり、相手の言動を、相手の立場に立って、非審判的に、あるがままに理解することであり、信頼関係（ラポール）構築の手法です。その共感的理解について考えてみると、己の持つ先入観や価値観を介入することなく無心に相手の気持ちや感情や言動を、その動機にまで遡って理解しようとする姿勢です。

では、そもそも“理解する”とはどういうことでしょうか。感覚的な理解と思想的な理解。我々は多くの事物や事象だけでなく言葉すらも感覚的に受け止めて、インスピレーションを高めることにより意識の中で具現化を図ります。その意識作用を通して世界を認識し、理解しています。しかし、感覚的な理解は対象に対しては漠然とした印象の世界です。感覚的理解は、蓋然性の中で、空ろな理解であり、本当の意味で理解したとは言い難いものです。その典型は、我々がよく言う「なんとなく分かる」「感覚的には分かるんだけどなぁ」という、十分に語ることのできない漠然とした抽象的な理解です。

その空ろな理解を客体化し、誰もが明晰判明に理解できるようにするのが言語化であり思考です。原初的な感覚的理解を乗り越えるためには現象をしっかりと受け止め、分析する論理的な理解が必要です。しかし、論理的な理解にのみに頼ると現実の現象、事実から遊離し、全体を掴みきれません。言語化は常に己を超えた他者を要求します。感性と理性を超えた気づきの世界が、現実をよりリアルに私の世界として直視することができるのと同時に、論理的な広がりや深みのある理解を促進する原動力ともなります。

寄り添うケアの“寄り添う”とは、ただ寄り添うだけでは何も見えません。感性を研ぎ澄ませ、自己の枠を超えてその人の内面的な世界とコミュニケーションの中で論理的に言語化する作業です。その作業を通してこそ、他者と自己との垣根を越えたより深化した関係性が構築されるとともに、新たな世界が開かれるのではないのでしょうか。ナイチンゲールは『看護覚え書』の中に「この世の中に看護ほど無味乾燥どころかその正反対のもの、すなわち、自分自身は決して感じたことのない他人への感情のただ中へ自己を投入する能力を、これほど必要とする仕事は他に存在しないのである。」と語っています。対人援助とは、そのような自己の枠組みを超えた他者との関係性の中にあるのかと思う次第です。

文 副施設長 岸田 光彦

「共感的理解」について



いつもお手伝いありがとうございます



今回の裏表紙では、利用者の皆さんにお手伝いをさせていただいている様子をご紹介いたしました。時には利用者さん同士、楽しそうにお話しながら、また時には真剣な表情で取り組まれている方もおられます。日々の生活の中でやりがいを感じ、主体的に取り組まれるひと時として、このような機会を大切にしていきたいと考えています。

寄贈をいただきました。

- \* 財団法人 京都新聞福祉事業団 様  
「介助用車椅子」
- \* 財団法人 タキイ財団  
タキイ種苗株式会社 様 「草花種子」
- \* 立松 美代子 様 「文旦」「八朔」
- \* 福尾 恒夫 様 貞子 様
- \* 白藤 ミナ 様

実習生受け入れ (2月~4月)

京都福祉専門学校、ACT 音羽育成学級  
京都橘大学看護学科、

ボランティア様 ご紹介

- \* フロア生け花 / 松井 ちづる 様
- \* デイサービスボランティア /  
澤 信子 様、鈴木 啓子 様
- \* 3階フロアボランティア / 石野 義子 様
- \* 琴訪問演奏 / 藤川 阿奇子 様
- \* ひな祭りコンサート / のふじの会 様
- \* 音楽療法  
特養：音の風 様  
デイサービス：越田 民代 様、松永 裕子

皆様のご芳情に厚くお礼申し上げます。今後とも山科苑へのご理解、ご協力を心よりお願い申し上げます。



松井 ちづる様 作  
生け花

編集後記

日々利用者の皆さんと接する中で、「なにが手伝うことはないか?」と声をかけていただくことがよくあり、実際様々な場面でお手伝いをさせていただいています。利用者さんのなかには「これは私の仕事」と率先して活躍されている方や、職員と一緒に時には楽しく、時には「こつやるんやで」と若手の職員に話されている方もおられます。家事に関することが得意な方や、修理や力仕事などが得意な方など、若き日に日常的に行われてきたことが、今でも体で覚えておられるように、びっくりするくらいの手際よさです。

またお手伝いをしていただいているときの表情は、レクレーション等で見せていただけるとは一味違った真剣な表情をされています。働くことに純粋なやりがいを感じておられるようです。このような姿勢が、今日の豊かな社会を実現してこられた原動力なのだろうと考えた時、今回の裏表紙の編集を行いながら、「職員に話されている方も考えることとなりまして、私自身利用者の皆さんのやりがいを持つて取り組まれる姿勢に、本当に尊敬を覚えるとともに、見習わなければならないなと感じました。

文 宮前 収児

相談・苦情受付連絡先

京都市山科区大塚野溝町3番地

緑寿会 (075) 593 0804

苦情解決責任者

施設長 吉澤 英樹

相談・苦情受付窓口

副施設長 岸田 光彦

花咲かだより 70号 初夏号 平成21年6月1日

発行所 / 社会福祉法人 緑寿会

特別養護老人ホーム

デイサービスセンター 居宅介護支援センター

山科苑発行担当 / 山科苑広報委員会

広報委員 / 中村里美、安富 友視、多岐ゆみこ

響庭恵、中谷博己、宮前収児